

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2026年／令和8年

第499号

10月号

（毎月1回10日発行）

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L. 03-5843-0480 F A X. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L. 03-3811-6911 F A X. 03-3811-6290

王座 返り咲き！



皇后盃 第78回全日本総合女子選手権大会（2026.9.12～14／宮崎県宮崎市・日南市・延岡市）

C o n t e n t s

・皇后盃 第78回全日本総合女子選手権大会	2	・ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節	16
・第61回全日本大学男子選手権大会	4	・第59回日本女子リーグ第3節	20
・第48回全国中学校男子大会	6	・第55回日本男子リーグ第3節	24
・第48回全国中学校女子大会	8	・女子U15日本代表レポート	28
・第23回全日本一般男子大会	10	・リーグも再開！ 全日本大会も開催続く!!	30
・第35回全日本実年大会	12		
・第41回全日本壮年大会	14	・事務局だより	32

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

◎皇后盃 第78回全日本総合女子選手権大会◎

令和8年9月12日（土）～14日（月）宮崎県宮崎市・日向市・延岡市／清武総合運動公園SOKKENスタジアム 他



記録提供：宮崎県協会記録委員会



「日本の頂点」をかけ、熱戦展開！

「国内最高峰」の歴史・権威ある大会、日本女子ソフトボールの頂点を決める「皇后盃 第78回全日本総合女子選手権大会」が9月12日（土）～14日（月）の3日間、宮崎県宮崎市・日向市・延岡市を舞台に開催された。本大会には前回優勝・準優勝チームをはじめ、日本女子ソフトボールのトップリーグ・JDLリーグ所属チームが推薦出場。そこに全国各ブロックの予選を勝ち抜いた15チーム、地元（開催地枠）1チームを加え、合計32チームで覇が競われた。

文字通り「トップレベル」の熱戦・激闘を勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは、前年王者、豊田自動織機シャイニングベガ（愛知）を筆頭に、ビックカメラ高崎ビークイーン（群馬）、伊予銀行ヴェールズ（愛媛）、トヨタレッドテリアーズ（愛知）の4チーム（※すべてJDRリーグ所属チーム）。「頂点」をめざし、最終日「最後の決戦」に臨んだ。

〈準決勝〉

ビックカメラ高崎

4-2 豊田自動織機

試合が動いたのは4回裏、豊田自動織機は一死一塁から4番・マケナ・スミスがレフトスタンドへ豪快なツーランホームラン！ 待望の先制点を挙げた。

しかし、ビックカメラ高崎は直後の5回表、2本の安打、四球等で一死満塁と塁上を埋め、5番・藤田俊がレフトへ犠牲フライ、まず1点を返すと、続く6番・炭谷遙香もしぶとくライト前へタイムリー！ さらにワイルドピッチ、相手守備の乱れで加点し、4-2と逆転に成功した。

守っては、藤原真優美、カーリー・フーバー、上野由岐子と3人の投手を継投。失点を4回裏の2点（ツーラン

ホームラン一発）のみに止め、3年ぶりの決勝へ駒を進めた。

〈準決勝〉

伊予銀行 2-1 トヨタ

初回到両チーム1点ずつを取り合い、迎えた3回表、伊予銀行は四球、送りバントで一死二塁と得点圏に走者を進め、3番・辻井美波がファースト横を抜くタイムリー！ 「頼れるキャプテン」の一打で勝ち越しに成功した。



3番・辻井美波が勝ち越し打！

投げては、先発・曾我部由楽が初回1点を失いはしたものの、トヨタ打線に追加点（反撃）を許さず、そのまま完投勝利！！ 初の決勝へと駒を進めた。

《決勝》

ビックカメラ高崎

5-3 伊予銀行ヴェールズ

互いに点を取り合う「シーソーゲーム」となり、4回終了時点で2-2の

同点。

迎えた5回表、伊予銀行が一死二塁から3番・辻井美波のレフト前タイムリーで再び1点をリード。このまま逃げ切るか……と思われた。

しかし、その裏、ビックカメラ高崎は代わった曾我部由楽を攻め、四球、バント安打等で二死一・二塁とすると、4番・山内早織がレフトオーバーのタイムリーツーベース！ 二者を迎え入れ、一気に逆転に成功！！ 送球間の進塁で二死三塁のチャンスが続き、5番・藤田俊も一・二塁間を破るタイムリー。この一回一挙3点を奪った。



5回裏、逆転タイムリーを放った山内早織

守っては、その2点のリードを6回表からリリーフした「レジェンド」上野由岐子が守り、二転三転のクロスゲームに勝利！ チーム一丸「粘り強い戦い」で頂点に立ち、3年ぶり5回目の優勝を飾った。

大会トーナメント表、全試合インングスコア、決勝ダイジェストはこちら！



第61回全日本大学男子選手権大会

令和8年9月5日（土）～7日（月）富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

記録提供：富山県協会記録委員会

日本体育大学（東京）



3年連続35回目の優勝

標記大会は富山県富山市を舞台に9月5日（土）～7日（月）の3日間にわたり開催され、全国の精鋭32チームが集結し、熱戦を展開。

大会初日（5日／土）に1回戦・16試合が行われ、広島大学対日本体育大学で竹内淳貴選手（日本体育大学）が満塁本塁打を記録。また2日目（6日／日）の2回戦・準々決勝の12試合のうち、2回戦の京都産業大学対環太平洋大学で守田隼人投手（京都産業大学）がノーヒット・ノーラン（投球数88球、アウトの内訳…三振4、内野ゴロ11、バント1、内野飛4、外野飛1、出塁の内訳…四球3）を達成した。3日目（7日／月）には準決勝・決勝の3試合が行われ、全国的に不安定な天気予報の中、「奇跡的」に予定通り大会を実施することができた。



インカレ「初導入」
となった20秒計

大会最終日まで勝ち上がった神戸学院大学（兵庫）、京都産業大学（京都）、日本体育大学（東京）、中京大学（愛知）の4チームが「インカレ男子」の頂点をかけて最終決戦に挑んだ。

〈準決勝〉京都産業大学 3 - 2 神戸学院大学

先攻の京都産業大は初回、二死から3番・山中悠介がレフト前ヒットで出塁し、4番・松谷惇史のレフトスタンドに突き刺すツーランホームランで2点を先制。

2点を追う神戸学院大は3回裏、死球で出塁した走者が次打者のセンターフライでタッチアップし、二塁へ進塁。さらに四球、3番・森岡暖のレフト前ヒットで一死満塁と攻め立て、4番・赤嶺之哉のレフト前タイムリーで一気に二者が生還。2 - 2の同点に追いついた。

同点のまま、迎えた終盤6回表、京都産業大はこの回先頭の3番・山中悠介がレフト線を抜くツーベースヒットを放つと、一死後、ワイルドピッチで三塁へ進塁。このチャンスに5番・佐藤昂がライト前タイムリーを放ち、勝ち越し。そのまま3 - 2で逃げ切り、4年ぶりの決勝進出を決めた。

〈準決勝〉日本体育大学 9 - 6 中京大学

後攻の中京大は初回、2本の安打と四球で無死満塁の絶好の先制機をつかむと、4番・中西崇晏の三遊間を破るタイムリーでまず1点。続く5番・高田幸平のセカンドゴロの間に2点目を挙げ、6番・松浦後太、7番・神谷蓮士朗の連続タイムリーでこの回一挙4点を先制した。

4点を追う日体大は4回表、二死一・二塁から8番・早石律生、代打・田中智基の連続タイムリーで2点を返し、続く5回表にも、この回先頭の2番・藤田真之介、3番・竹内淳貴の連打から一死二・三塁のチャンスをつかみ、5番・宮本祐道のライトへの犠牲フライで三塁走者が生還。1点差に迫った。

日体大は最終回、1番・古賀亮祐が死球で出塁し、犠打で二塁へ進塁。3番・竹内淳貴のサードゴロの間に、二塁走者が相手守備の一瞬の隙を突いて一気に本塁へ突入！間髪を容れずセーフとなり、土壇場で4 - 4の同点に追いついた。

試合はそのまま延長タイブレークへとつれ込み、8回に両チームが1点ずつを取り合い、迎えた9回表、日体大は9番・胡京佑のバント安打で無死一・三塁とした後、1番・古賀亮祐のライトへの犠牲フライで勝ち越しに成功。盗塁、ワイルドピッチで一死三塁と再びチャンスを作り、2番・藤田真之介のショートゴロの間に2点目を加え、さらに3番・竹内淳貴がソロホームランを放つと、4番・津田龍輝、5番・宮本祐道にも連続長打が飛び出し、この回一挙4点。試合を決めるビッグイニングを作り、中京大を突き放した。

その裏、中京大の必死の反撃を1点に抑え、日体大が9 - 6でこの激闘を制し、3年連続となる「インカレ制覇」へ王手をかけた。

〈決勝〉京都産業大学 0 - 3 日本体育大学

決勝は、大会3連覇を狙う王者・日体大が序盤から着実に得点を重ね、試合の主導権を握った。

日体大は2回裏、6番・早石律生のセンター前ヒット、7番・岡奏太のショート内野安打で無死一・二塁とし、一死後、パスボールで走者がそれぞれ進塁。二・三塁の先制機を迎えると、9番・胡京佑のレフトへの犠牲フライで、三塁走者を迎え入れ、先取点を挙げた。

1点をリードし、迎えた5回裏には、敵失で出塁した走者を犠打で二塁に進め、3番・竹内淳貴のレフト前タイムリーで二塁走者が一気に還り、2 - 0とリードを広げた。続く6回裏にも代打・宮内悠河のバント安打に相手守備の乱れも絡み、二塁まで進塁。さらにワイルドピッチで無死三塁とし、一死後、代打・田中智基のレフト線を破るタイムリースリーベースで決定的な3点目を挙げ、「優勝」を大きく引き寄せた。

迎えた最終回、京都産業大の最後の攻撃を無得点に抑え、3 - 0の完封勝ち。投打にわたる総力、選手層の厚さを見せつけ、「ここの一番」での底力を発揮した日体大が「インカレ3連覇」を達成。通算35回目の優勝を飾り「大学男子ソフトボール界」の王者として、また一つその「歴史」に新たなページを加えた。



「王者」日体大が3連覇を達成！

大会トーナメント表、全試合イニングスコアは日本ソフトボール協会公式サイトで！

●第48回全国中学校男子大会●

令和8年8月22日（土）～24日（月）岡山県倉敷市／倉敷スポーツ公園



新見市立新見第一中学校（岡山）

有終の美



記録提供：岡山県協会記録委員会



最後の全中に「想い」を込めて…

「中学生最大のスポーツの祭典」全国中学校体育大会。その中で続けてきたソフトボール競技も、「男子の部」が今回（第48回大会）で「最後」となり……長い歴史に幕が下ろされることになった。

8月22日（土）～24日（月）の3日間、岡山県倉敷市を舞台に開催された「最後の全中男子」には、全国の強豪16チームが出場（※長崎、群馬、高知、大阪はそれぞれ2チーム出場）。

各チームの「想い」が詰まった白熱の戦いを勝ち上がり、ベスト4に名乗りを上げたのは新島学園中学校（群馬）、仁淀・池川・尾川中学校（高知）、新見市立新見第一中学校（岡山）、窪川・大正中学校（高知）。

大会最終日、いよいよクライマックスを迎える準決勝・決勝に周囲の注目が集まった。

《準決勝》

仁淀・池川・尾川中

9-2 新島学園中

先攻の仁淀・池川・尾川は初回、1番・佃柚汰の中前安打を口火に3本の長短打、相手守備の乱れでいきなり3点を先制。すぐに2点を返されたものの、3回表、二者連続の押し出し四球で追加点。4回表には一死二・三星から6番・山口祐衣の犠牲フライで1点、6回表にも一死から3連続長短打等で3点を加え、リードを7点に広げた。



仁淀・池川・尾川が着々と加点！

守っては、「2年生エース」井上晴翔が毎回のように入走者を背負いながらも大崩れすることなく、2回以降無失点。打線の援護にも助けられ、終わってみれば6回コールドの圧勝で優勝に「王手」をかけた。

《準決勝》

新見第一中 7-1 窪川・大正中

後攻の新見第一は初回、相手投手の制球の乱れに乗じて二死満塁の好機を得ると、6番・吉國瑠色斗が左中間へ2点タイムリーを放ち、先制。4回裏にも四球、犠打野選で得たチャンスを着実に得点に結びつけ、2点を追加。1点を返された後の6回裏には、二死三星から4番・後藤琉紀愛、5番・宮本滉太、6番・吉國瑠色斗の3連打でダメ押しとなる3点を加え、7-1で快勝！5年ぶりの決勝へ駒を進めた。



窪川・大正は準決勝敗退

《決勝》

新見第一中

5-4 仁淀・池川・尾川中

中学男子ソフトボールの歴史において言わずと知れた「強豪」「ライバル」



新見第一、「執念」のサヨナラ勝ち!!

対決。全中男子の「ラスト」を飾るにふさわしい仁淀・池川・尾川 vs 新見第一の決勝戦は、序盤3回を終了して4-2と仁淀・池川・尾川がリード。土壇場の7回裏、地元・岡山で「このまま終わるわけにはいかない！」新見第一が一死から4安打を集中する等「執念」で食らいつき、4-4の同点に。延長タイブレークへもつれ込む熱戦となった。

8回は互いに得点を挙げられず、迎えた9回裏、新見第一はバント安打、故意四球で無死満塁の絶好機を得ると4番・後藤琉紀愛がセカンド内野安打！この間に三星走者が生還し、5-4のサヨナラ勝ち!! 記録と記憶に残る「死闘」を制し、地元開催で見事「有終の美」（5年ぶり4回目の優勝）を飾った。

大会トーナメント表、イニングスコア、決勝ダイジェストはこちら



第48回全国中学校女子大会

令和8年8月22日（土）～24日（月）岡山県倉敷市／倉敷スポーツ公園 他

記録提供：岡山県協会記録委員会

岸和田市立岸城中学校（大阪）



3年ぶり6回目の栄冠

大会初日（22日／土）に1回戦・12試合、2日目（23日／日）に2回戦・準々決勝の12試合、3日目（24日／月）に準決勝・決勝の3試合を行い、無事全日程を終了することができた。

大会最終日のベスト4には、岸和田市立岸城中学校（大阪）、鹿児島チェリーブロッサムソフトボールスポーツ少年団（鹿児島）、神田女学園中学校（東京）、足羽ソフトボールクラブ（福井）が勝ち上がり、「全中優勝」をめざし、最後の戦いに挑んだ。



真夏の太陽が照りつける中、熱戦を展開！

標記大会は8月22日（土）～24日（月）の3日間にわたり、岡山県倉敷市を舞台に開催。「女子の部」には、全国の厳しい予選を勝ち抜いた精鋭28チームが集結し、熱戦を繰り広げた。

〈準決勝〉鹿児島チェリーブロッサムソフトボールスポーツ少年団 0-4 岸和田市立岸城中学校

後攻の岸城は初回、鹿児島の先発・浪瀬茉央の立ち上がり攻め、1番・中西一夏の三遊間を抜く安打、2番・米谷映依瑠のセカンド内野安打で無死一・二塁のチャンスをつかみ、一死後、4番・岡結菜のレフト前タイムリーでまず1点。さらに5番・藤笠結咲のセンター前ヒットで一死満塁と攻め立て、6番・山本こゝろがレフト線を抜く走者一掃のタイムリースリーベースを放ち、3点を追加。この回一挙4点を先制し、試合の主導権を握った。

その後は両チームとも得点を奪えず、岸城が4点のリードを守る展開に。投げてはエース・七野果恋が鹿児島打線を散発4安打に抑え、完封。岸城が4-0で鹿児島を破り、2年連続の決勝進出を決めた。



山本こゝろの適時三塁打等で4点を先制

〈準決勝〉神田女学園中学校 9-3 足羽ソフトボールクラブ

後攻の足羽は初回、神田の先発・櫻本柊凜の制球の乱れと敵失につけ込み、労せずして2点を先取。なお続く二死三塁のチャンスに6番・山崎紅葉がレフトヘタイムリーツーベースを放ち、3点を先制した。

しかし、それも束の間、神田がすぐに反撃を開始。直後の2回表、敵失で出塁した走者を犠打で二塁へ進め、二死後、7番・諸橋日和のセカンドへの当たりが内野安打となり、これに相手守備の乱れも絡んで、二塁走者が一気に生還。まず1点を返すと、続く3回表にも、二死から2番・森井澄香が二遊間を抜く安打で出塁し、すかさず盗塁を決め、二死二塁。敵失で二死一・三塁とチャンスを広げ、ワイルドピッチで2点目。

神田が11安打9得点の猛攻で逆転勝利！



さらに四球で再び一・三塁と攻め立て、5番・山上つばきの左中間を破るタイムリーツーベースで二者が生還し、4-3と逆転に成功。なおワイルドピッチで二死三塁とした後、FP・大和田凜がDPの打撃を兼務して打席に入り、センター前タイムリーを放って、この回4点目。一気に試合をひっくり返し、5-3とリードを奪った。

神田は5回表にも、一死満塁から押し出しで1点、9番・皆川みなみのセカンドゴロの間に三塁走者が還り、1点とこの回2点を追加。最終回にも1番・櫻本柊凜、2番・森井澄香の連続タイムリーツーベースで2点を加え、終わってみれば9-3の大差をつけ圧勝。序盤の3点ビハインドをひっくり返し、決勝へ駒を進めた。

《決勝》神田女学園中学校 0-1 岸和田市立岸城中学校

決勝は、ともに「女子U15日本代表」に選出されている神田・櫻本柊凜、岸城・七野果恋の「両エース」が見応えある投手戦を演じ、両チームともに無得点のまま、延長タイブレークに突入。

延長8回表、神田はタイブレークの走者をセカンドゴロで三塁に進めたものの、後続が空振り三振、センターフライに倒れ、無得点。

その裏、岸城は死球、7番・横田喜那のバント安打で無死満塁の絶好機を迎え、8番・藤原幸のセカンドゴロは本塁フォースアウト。続く9番・岡本吏世もセカンドフライに倒れ、二死となり、チャンスを逃したかに見えたが、1番・中西一夏が初球をとらえ、レフト線を抜くサヨナラタイムリー！最後は「キャプテン」の「執念」の一打で決着をつけ、3年ぶり6回目の栄冠を手にした。



最後まで力投を続け、岸城中を頂点へ導いた七野果恋

大会結果詳細、全試合イニングスコアは日本協会公式サイトで！

第23回全日本一般男子大会

令和8年8月21日（金）～24日（月） 北海道帯広市／札幌川河川敷ソフトボール場 他
記録提供：北海道協会記録委員会



宮崎モンキーズ（宮崎）

初の栄冠に輝く！



優秀選手・佐藤泰人
（へべれけ）



大会 MVP・岩切蓮
（宮崎モンキーズ）

【大会概要】

標記大会が、8月21日（金）～24日（月）の4日間、北海道帯広市・札幌川河川敷ソフトボール場、河東郡音更町・音更中央公園ソフトボール場を会場に開催された。

大会は、全国の精鋭46チームが「北の大地」に集結。大会初日、帯広・音更の2会場・4球場を使用し、1回戦14試合を行い、2日目は同じく2会場・4球場で2回戦12試合・3回戦4試合の計16試合を実施。3日目も2会場・4球場を使用し、3回戦8試合・準々決勝4試合の計12試合を行い、大会最終日は主会場である帯広・札幌川河川敷ソフトボール場の2球場で準決勝2試合・決勝1試合の計3試合を行い、全日程を終了した。

北海道とはいえ、日中の日差しは強く感じられたが、一歩日陰に入り、風が吹けば爽やかで過ごしやすく、朝晩は肌寒さを感じる気候の中、無事大会を終了することができた。

準決勝には、ここまで無失点で勝ち上がった宮崎モンキーズ（宮崎）。打線好調のつくばベイブルース（茨城）。昨年3位、「今年こそ優勝！」と意気込むへべれけ（愛知）。上位進出の常連・トーホードリムス（福島）。以上、4チームが駒を進めた。

〈準決勝〉 つくばベイブルース 1-6 宮崎モンキーズ

後攻の宮崎モンキーズは初回、安打、四球等で二死一・二塁の先制機を作り、相手守備の乱れに乗じて2点を先制。さらに6番・小山田陸のタイムリーで1点を加え、初回到3点を奪い、試合の主導権を握ると、続く2回裏にも8番・伊藤裕一郎、9番・甲斐匠斗、1番・岩切蓮の3連打、3番・福中敦のタイムリーで3点を挙げ、序盤で勝負を決めてしまった。

守っては、今大会無失点の「エース」岩切蓮が2回表にソロホームランを浴び、初失点したものの、許した安打はその1本だけ。被安打1・失点1・奪三振13の好投で6-1と圧勝。決勝進出を余裕の試合運びで決めた。



鮮やかな先制攻撃で序盤から猛攻！
宮崎モンキーズが決勝進出！！

〈準決勝〉 トーホードリームス 2-3 ヘベレけ

トーホードリームスは3回表、敵失で出塁した走者を一塁に置き、1番・岸波洋介の中越適時三塁打で先取点を挙げ、続く4回表にも、相手守備の乱れに乗じて1点を加え、2点差にリードを広げた。

2点を追うヘベレけは5回裏、一死からの4連続長短打で一気に同点に追いつき、2-2の同点のまま、試合は延長タイブレークに突入。

ヘベレけは8回裏、一死満塁から4番・今泉成登がセンターへ大飛球を放ち、センター・岸波洋介が追いついたかに見えたが……無情にもグラブからボールがこぼれ落ち、ヘベレけが劇的なサヨナラで決勝進出を決めた。



センター・岸波洋介、懸命の
ダイビングキャッチ及ばず…

〈決勝〉 ヘベレけ 1-3 宮崎モンキーズ

両チーム無得点で迎えた3回表、ヘベレけは敵失、内野安打で一死一・二塁とし、次打者のファーストゴロの間に走者がそれぞれ進塁。4番・今泉成登への初球がパスボールとなり、三塁走者が還り、ヘベレけが思わぬ形で先取点を挙げた。

一方、宮崎モンキーズはその裏、一死から3番・福中敦がツーボール・ツーストライクからの5球目をレフトスタンドへ運ぶソロホームラン！「一振り」で試合を振り出しに戻した。1-1の同点で迎えた5回裏には、一死から2番・新谷壘が二遊間を抜く安打で出塁。二死後、4番・柿元武蔵がレフトスタンドに豪快に運ぶツーランホームランを放ち、3-1とリードを奪った。

ヘベレけも6回表、二死から6番・土井健斗、7番・杉浦将大の連打で一・三塁と攻め立てたが、「好投手」岩切蓮の前に「あと一本」が出ず、無得点。最終回も三者凡退に終わり、3-1で宮崎モンキーズが勝利を収め、初の栄冠を手にした。

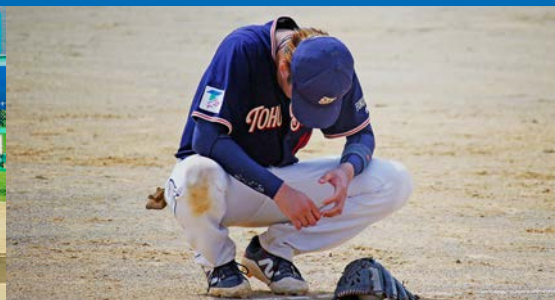
宮崎モンキーズの「エース」岩切蓮は、今大会6試合を一人で投げ抜き、38イニングを投げ、わずか2失点（自責点1）。投球回数を大きく上回る50奪三振の力投で初優勝に大きく貢献した。



「エース」の力投で宮崎モンキーズが初優勝！



決勝戦ダイジェスト動画はこちら



大会結果の詳細、全試合のインニングスコア等は、
日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで

第35回全日本実年大会

令和8年9月5日（土）～7日（月） 千葉県成田市／重兵衛スポーツフィールド中台野球場 他
記録提供：千葉県協会記録委員会 写真提供：千葉県協会



悪天候のため無念の大会途中打ち切り



【大会概要】

標記大会が9月5日（土）～7日（月）の日程で、千葉県成田市・重兵衛スポーツフィールド中台野球場を主会場に5会場8球場を使用して開催された。

大会には、全国の精鋭48チームが出場。大会初日、8球場を使用し、1回戦16試合・2回戦14試合の計30試合を実施。2日目は悪天候が予想される中、2回戦の残り2試合と3回戦の第1試合・3試合を行ったところで試合続行が不可能となり、翌7日（月）も天候の回復が見込めないことから、この時点で「大会途中打ち切り」とすることを決定した。

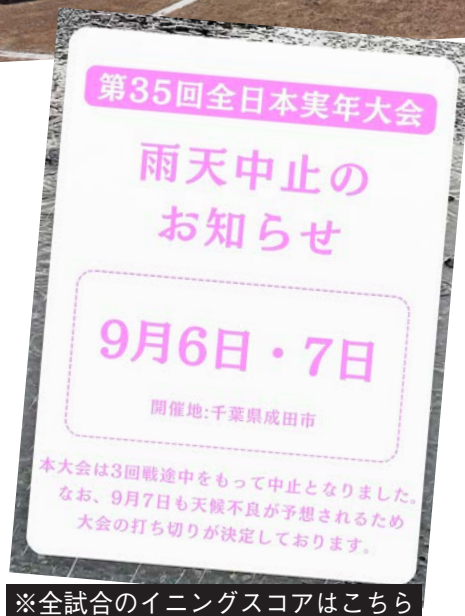
この「実年大会」は、悪天候に見舞われることが多く、2023年・2024年は台風の影響で大会中止を余儀なくされ、大会開催時期・場所を移して「代替大会」を行っており、昨年（2025年）も悪天候のため、準決勝・決勝を実施できず、「4チーム優勝」で幕を閉じている。

本年も大会前から悪天候が予想されており、初日こそ予定通り試合を行うことができたが、2日目に天候が悪化。最終日はさらに天候が悪くなる予報とあって「大会途中打ち切り」を余儀なくされてしまった。

第35回全日本実年大会 試合結果

※荒天のため3回戦途中で中止

1	安曇野倶楽部	長野	2	
2	宮城実年イーグルス	宮城	3	4
3	オールあきる野実年	東京	4	
4	鹿児島HORNETS 50's	鹿児島	6	1
5	広島クラブ実年	広島	1	2
6	CSK	千葉	13	8
7	インパルス3rd	静岡	1	
8	生駒実年クラブ	奈良	0	2
9	大野クラブ	福井	9	
10	SUBARU	栃木	13	4
11	吉野川クラブ	徳島	2	8
12	沖縄でいこクラブ実年	沖縄		
13	アストロ実年	山梨	8	1
14	高知里見防水SBC実年	高知	5	4
15	小松実年ソフトボールクラブ	石川		
16	ダイヤモンドスター	京都	5	6
17	ドゥプロジェクト	熊本	6	10
18	可児ホークス実年	岐阜		1
19	和歌山ヤンキース	和歌山	2	4
20	実年US奥州	岩手	2	9
21	伊勢崎実年	群馬		
22	伊万里倶楽部	佐賀	2	6
23	輝龍	茨城		11
24	松江フィフティーズ	島根		0
25	大阪吹田クラブ	大阪	2	1
26	ニコルズ	富山	8	4
27	岡崎組実年	三重		9
28	オール福生実年	東京	2	2
29	北川通信実年SC	熊本	5	3
30	KSC丸亀	香川		5
31	京葉クラブ	千葉		5
32	姫路ZeroStars	兵庫	3	12
33	福島北ソフトボールクラブ	福島	8	
34	越谷クラブ	埼玉	5	3
35	上越ジョーパン	新潟		2
36	山口クラブ	山口		
37	久本寺ウエンテラーL	長崎	4	0
38	日本製鉄鹿島実年	茨城	1	2
39	草津クラブ実年	滋賀		
40	新見城山実年クラブ	岡山	7	4
41	六郷実年	山梨		11
42	庄内町ひまわりクラブ実年	山形		14
43	S.L.C福岡	福岡		3
44	習志野クラブ実年	千葉	3	0
45	松山倶楽部	愛媛	4	2
46	石狩SC実年	北海道	1	3
47	愛港クラブ	愛知	9	1
48	大和ファルコン	神奈川		11



第41回全日本壮年大会

令和8年9月12日（土）～14日（月） 広島県呉市・東広島市・広島市／入船山公園多目的広場 他
記録提供：広島県協会記録委員会



準決勝を前に天候が悪化し、大会打ち切りを決定

標記大会は9月12日（土）～14日（月）の3日間、広島県呉市・東広島市・広島市の三市で開催され、全国各地から予選を勝ち抜いた精鋭48チームが集結し、熱戦を繰り広げた。

大会初日（12日／土）に1回戦・2回戦の32試合を実施。2日目（13日／日）に3回戦・準々決勝の12試合を行い、ベスト4が出揃った。

迎えた大会最終日（14日／月）は、準決勝を前に大雨と雷を伴う悪天候に見舞われ、グラウンドコンディションの回復も見込めないことから、試合の中止、この時点での大会打ち切りを決定。南島原クラブ（長崎）、SRF（埼玉）、DC川原石クラブ（広島）、SBC神奈川・小田原（神奈川）の4チーム同時優勝で幕を閉じた。

本誌では大会2日目に行われた準々決勝4試合の試合経過・試合結果を掲載し、大会のまとめ、報告とさせていただきます。

〔準々決勝〕

甲府コンバット3ー13南島原クラブ

先攻の甲府は初回、1番・吉本健一のショート内野安打に敵失も絡み、無死二塁のチャンスを得ると、一死後、3番・久保圭祐の右越適時三塁打で先制。さらにワイルドピッチでもう1点を追加し、この回2点を先制した。

その裏、南島原は内野安打、二者連続のバント安打で無死満塁と攻め立て、4番・中村博也のバックスクリーンに飛び込む満塁ホームランで4点を奪い、逆転に成功。2回裏にも、安打、盗塁、犠打で一死三塁の好機を作り、3番・松野勇輝の二遊間を抜く適時打で1点を追加。さらに3回裏には、1番・湯田裕樹の左中間を破る適時二塁打、2番・山崎秀太の中越適時三塁打を含む6本の長短打を集中し、一挙6得点！11ー2と大差をつけた。

南島原は1点を返され、迎えた4回裏にも、代打・高橋剛、同じく代打・近藤文明の連打と2番・山崎秀太のバント安打で二死ながら満塁のチャンスをつかみ、3番・松野勇輝の左中間を抜く2点適時打で13ー3となり、10点

差がつき、大会規程により4回得点差コールドが成立。南島原が初優勝を手にする結果となった。

〈準々決勝〉

下関 RISE クラブ 対 1114 SRF

後攻のSRFは初回、1番・今野啓輔が三遊間を破る安打を放ち、猛攻の口火を切ると、犠打、四球、盗塁で一死・三塁の先制機をつかみ、4番・長野太一郎、5番・上田元樹、6番・師岡淳吾の三者連続適時打を含む7連続長短打で7得点を挙げ、早々に試合を決めてしまった。

勢いに乗るSRFは2回裏にも、一死・二塁から6番・師岡淳吾の2点適時三塁打、7番・榎敦司の適時二塁打で3点を加え、さらに1番・今野啓輔、2番・平岩光平の連続適時打等で3点を追加。この回も6点を奪い、13―0と大きくリード。1点を返され、迎えた3回裏にも二死一・三塁から9番・山本健太の二遊間を抜く適時打で14点目。4回表の下関の攻撃を無得点に抑え、14―1で4回得点差コールドゲームとなり、SRFが初の栄冠につながる勝利を挙げた。

〈準々決勝〉

ケアコミュニケーション 対 8

DC川原石クラブ

先攻のケアコミュニケーションは初回、1番・坪内勇人が二遊間を抜く安打で出塁。一死後、犠打で走者を二塁に進め、4番・上田城司の右中間を破る適時二塁打で一気にホームイン。1点を先取した。

1点を追う川原石はその裏、すぐに反撃。1番・篠原一母の三遊間を破る安打、2番・上野正典のショート内野安打で無死一・二塁とし、3番・吉田勇のショートゴロが敵失を誘い、二塁走者が生還。同点に追いつくと、なお無死一・三塁の好機に4番・古田慎太郎の中犠飛で逆転。さらに5番・畑洋平に中越2点本塁打が飛び出し、この回4点を挙げ、あっさり逆転に成功。川原石は2回裏にも、連続四死球で出塁した走者をワイルドピッチ、6番・笹田裕の中前適時打で返し、この回2点を追加。3回裏には、1番・篠原一母がソロ本塁打を放ち、7―1とリードを広げた。



篠原一母の本塁打で6点をリードした

川原石は5回裏にも、四球と2本の安打で二死ながら満塁の好機をつかみ、5番・畑洋平の二遊間を破る適時打で三塁走者が生還。この得点で7点差となり、5回得点差コールドゲームが成立。この勝利により、川原石は地元・呉で初優勝を果たすこととなった。

〈準々決勝〉

FLAT 418 SBC 神奈川・小田原

後攻の神奈川は初回、1番・杉田順司が左前安打で出塁し、すかさず盗塁。2番・綾部修のバント安打、盗塁で無死二・三塁の先制機をつかむと、3番・勝呂昌宏の中前適時打で先取点を挙げた。

先制を許したFLATは直後の2回表、一死から内野安打で出塁した走者を一塁に置き、8番・立川富雄の右越適時三塁打ですぐさま同点に追いついた。

その裏、神奈川も一死から7番・本田浩司のバント安打、8番・柏木寛之の左中間を破る二塁打で二・三塁の勝ち越しのチャンスを作り、9番・伊藤雄祐のレフト線を抜く適時二塁打で二者生還。さらに四球、ワイルドピッチで再び二・三塁と攻め立て、2番・綾部修のセカンドゴロの間に1点を加え、この回3点を挙げ、4―1とリードを奪った。

3点を追うFLATは3回表、2本の安打と死球で一死満塁の反撃機を作り、7番・石井利勝の中前適時打で二者が還り、1点差に迫ると、4回表にも一死から四球、安打で一・三塁とし、4番・木川寿久の左犠飛で三塁走者を迎え入れ、4―4の同点に追いついた。

しかし、その裏、神奈川が攻勢に転じ、四球、犠打で一死二塁とし、二死後、2番・綾部修のピッチャーゴロが相手守備の乱れを誘い、二塁走者が本塁を陥れ、勝ち越しの1点を奪うと、5回裏には連続四球で無死一・二塁とし、6番・原教史が勝負を決める中越本塁打を放ち、3点を追加。4点差をつけ、一死となったところで時間制限を迎え、8―4で試合終了。終盤に勝負強さを見せた神奈川が4年ぶり2回目の栄冠となる勝利を挙げた。



準決勝以降が悪天候のため中止となり、4チームが優勝を分け合う形となった

大会トーナメント表、
全試合インングスコアは
日本ソフトボール協会
オフィシャルサイトで！



ニトリ
JD.LEAGUE



ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節



第11節

「ニトリJD.LEAGUE 2026」は、リーグ中断期間の「サマーブレイク」を終え、9月4日（金）の「フライデーナイト」で後半戦の開幕を迎えるはずであったが、あいにくの悪天候に見舞われ、栃木県宇都宮市での「東地区」宇都宮ラウンドを除き、雨天順延に……。翌5日（土）は「東地区」が栃木県宇都宮市、静岡県掛川市の2会場、「西地区」が愛知県刈谷市、福岡県北九州市の2会場・計4会場で開催されたが、6日（日）は再び天候が悪化。「東地区」宇都宮ラウンドの第2試合、掛川ラウンドの1試合、「西地区」北九州ラウンドの2試合が中止・順延。7日（月）に「西地区」北九州ラウンドの「フライデーナイト」で流れた1試合を行うことができたが、「東地区」宇都宮ラウンドで1試合、掛川ラウンドで1試合、「西地区」刈谷ラウンドで1試合、北九州ラウンドで2試合が未消化。次節以降に持ち越されることになった。

「東地区」では、開幕から快調に首位を快走してきた戸田中央が、ビックカメラ高崎との「直接対決」に敗れ、18勝6敗で「同率首位」に並んだ（※この両チームはポストシーズン進出が

決定している）。消化試合数に差はあ
るものの、15勝9敗のホンダが3位
につけ、15勝10敗のデンソーが4位。
「プレーオフ進出」圏内を確保してお
り、5位以下を引き離している状態。
10勝13敗の日立、NECが同率5位、
8勝15敗の太陽誘電が7位、6勝18敗
の大垣ミナモが最下位と上位・下位
の色分けがハッキリしてきた。

「西地区」は、豊田自動織機が17勝
7敗で単独首位に立ち、「ポストシー
ズン進出」を決めており、2位には16
勝8敗のSGホールディングスがつけ
、「リーグ4連覇」「地区5連覇」を狙
うトヨタは15勝9敗で3位と苦境に立
たされている。

4位は今節、首位を走る豊田自動織
機、「王者」トヨタを連破。11勝13敗
と星を伸ばし、「ポストシーズン進出」
圏内を確保した日本精工。これを10勝
13敗のSHIONOGIが5位、10勝
14敗の伊予銀行が6位で追いかける展
開。「ポストシーズン進出」最後のイ
スを巡る争いは激しさを増しており、
6勝18敗のタカギ北九州が7位、5勝
18敗の東海理化が最下位の順で続い
ている。

レギュラーシーズンも残すところ2
節。各チーム「ラストスパート」をか
け、シーズンは「クライマックス」を
迎えることになる。

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節「東地区」宇都宮ラウンド 栃木県宇都宮市・清原球場

月 日	試合結果			
9月4日(金)		ホンダ リヴェルタ	9-2	デンソー ブライトペガサス
9月5日(土)	第1試合	デンソー ブライトペガサス	2-1	日立 サンディーバ
	第2試合	ホンダ リヴェルタ	5-3	大垣 ミナモ
9月6日(日)	第1試合	デンソー ブライトペガサス	4-6	大垣 ミナモ
	第2試合	ホンダ リヴェルタ	雨天順延	日立 サンディーバ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節「東地区」掛川ラウンド 静岡県掛川市・掛川市いこいの広場野球場

月 日	試合結果			
9月5日(土)	第1試合	戸田中央 メディックス埼玉	1-0	太陽誘電 ソルフィュー
	第2試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	2-8	ビックカメラ高崎 ビークイーン
9月6日(日)	第1試合	戸田中央 メディックス埼玉	0-3	ビックカメラ高崎 ビークイーン
	第2試合	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	雨天順延	太陽誘電 ソルフィュー

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節「西地区」刈谷ラウンド 愛知県刈谷市・刈谷球場

月 日	試合結果			
9月4日(金)		豊田自動織機 シャイニングベガ	雨天順延	トヨタ レッドテリアーズ
9月5日(土)	第1試合	SGホールディングス ギャラクシースターズ	2-3	トヨタ レッドテリアーズ
	第2試合	豊田自動織機 シャイニングベガ	2-9	日本精工 プレイブベアリーズ
9月6日(日)	第1試合	トヨタ レッドテリアーズ	1-3	日本精工 プレイブベアリーズ
	第2試合	豊田自動織機 シャイニングベガ	1-3	SGホールディングス ギャラクシースターズ
9月7日(月)		豊田自動織機 シャイニングベガ	雨天順延	トヨタ レッドテリアーズ

ニトリ JD.LEAGUE 2026 第11節「西地区」北九州ラウンド 福岡県北九州市・北九州市民球場

月 日	試合結果			
9月4日(金)		タカギ北九州 ウォーターウェーブ	雨天順延	伊予銀行 ヴェールズ
9月5日(土)	第1試合	SHIONOGI レインボーストックス	2-1	伊予銀行 ヴェールズ
	第2試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	0-6	東海理化 チェリーブロッサムズ
9月6日(日)	第1試合	伊予銀行 ヴェールズ	雨天順延	東海理化 チェリーブロッサムズ
	第2試合	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	雨天順延	SHIONOGI レインボーストックス
9月7日(月)		タカギ北九州 ウォーターウェーブ	3-6	伊予銀行 ヴェールズ

ニトリ JD.LEAGUE 2026**東地区 第11節終了時点 順位表**

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	ビックカメラ高崎 ビークイーン	18勝6敗	0.750
1位	戸田中央 メディックス 埼玉	18勝6敗	0.750
3位	ホンダ リヴェルタ	15勝9敗	0.625
4位	デンソー ブライトペガサス	15勝10敗	0.600
5位	日立 サンディーバ	10勝13敗	0.435
5位	NECプラットフォームズ レッドファルコンズ	10勝13敗	0.435
7位	太陽誘電 ソルフィーユ	8勝15敗	0.348
8位	大垣 ミナモ	6勝18敗	0.250

西地区 第11節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	豊田自動織機 シャイニングベガ	17勝7敗	0.708
2位	SGホールディングス ギャラクシースターズ	16勝8敗	0.667
3位	トヨタ レッドテリアーズ	15勝9敗	0.625
4位	日本精工 ブレイブベアリーズ	11勝13敗	0.458
5位	SHIONOGI レインボーストックス	10勝13敗	0.435
6位	伊予銀行 ヴェールズ	10勝14敗	0.417
7位	タカギ北九州 ウォーターウェーブ	6勝18敗	0.250
8位	東海理化 チェリーブロッサムズ	5勝18敗	0.217

※順位の赤字はポストシーズン進出決定チームを示す

©JD.LEAGUE



クライマックス

シリーズ



©JD.LEAGUE

選手・チームのプロフィール、試合結果、全試合のLIVE配信は JD.LEAGUE 公式サイトで

<https://jdleague.jp/>



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第59回
日本女子ソフトボールリーグ
第3節

静甲 ソルフェジオ

Platinum Section



MORI ALL WAVE KANOYA

PS 8勝2敗

**同率
首位**

SS 7勝3敗



小泉病院 Blue Arrows

Sapphire Section

ペヤング

【第3節】 令和8年9月5日（土）・6日（日）

☆プラチナセクション：岩手県一関市／イーストササキ・ボールパーク・一関

★サファイアセクション：島根県雲南市／加茂中央公園野球場

☆プラチナセクション☆

**静甲、MORI ALL WAVE KANOYA
8勝2敗で同率首位を並走**

★サファイアセクション★

**小泉病院、ペヤング
7勝3敗で「首位の座」守る**

●第3節・プラチナセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」第3節プラチナセクションは、9月5日（土）・6日（日）の両日、岩手県一関市／イーストササキ・ボールパーク・一関を会場に開催された。

「プラチナセクション」では、静甲、MORIALLWAVEKANNOYAが「交流節」を終え、「同率首位」に並んでおり、その両チームが今節も順調に連勝。通算成績8勝2敗で並び、「同率首位」の座を堅持している。

「連覇」を狙う静甲は、初戦のYKK戦に13―1と大勝。西村雛の2打席連続本塁打を含む長打8本、18安打・13得点の猛攻で3位・YKKの「挑戦」を一蹴。続く花王コスメ小田原戦は初回に1点を先制されたものの、その裏、すぐに逆転。4―2で勝利を収め、今節連勝。通算成績8勝2敗と星を伸ばした。

「王座奪還」に燃えるMORIALLWAVEKANNOYAは、初戦の花王コスメ小田原戦で大苦戦を強いられ、延長タイブレークの末、3―2の逆転サヨナラ勝ち。続く厚木SC戦は12安打・10得点と打ちまくり、10―0の大差で勝利を収め、今節連勝。通算成績8勝2敗で一步も譲らず、「同率首位」を並走している。

これを6勝4敗のYKKが3位で追いかけているが、「首位」静甲との「直接対決」に大敗したのが響き、3位の順位に変動はないものの、「同率首位」に並ぶ両チームとの差は広がっている。

4位は4勝6敗の花王コスメ小田原。「同率首位」に並ぶ静甲、MORIALLWAVEKANNOYAとの「直接対決」に連敗。「日本リーグ優勝」を争う「順位決定節」Aブロック（セクション2位以上のチームが進出）進出の可能性が完全に消滅してしまった。

5位は2勝8敗でルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、厚木SCの2チームが並んだ。

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は開幕戦の厚木SC戦以来となる勝利を挙げ、開幕2戦目から続いていた連敗を「7」でストップさせた。厚木SC戦は開幕戦に続き（開幕戦は10―8で勝利）、「大激戦」となったが、劇的勝利で2勝目を挙げた。

一方、厚木SCはそのルネス紅葉スポーツ柔整専門学校戦、最終回までリードを奪いながら「まさか……」の逆転サヨナラ負け。今節連敗で通算成績2勝8敗となった。

●第3節・サファイアセクション概要●

「第59回日本女子ソフトボールリーグ」第3節サファイアセクションは、9月5日（土）・6日（日）の両日、鳥根県雲南市／加茂中央公園野球場を会場に開催された。

「サファイアセクション」も小泉病院、ペヤングが6勝2敗の「同率首位」に並び、この「第3節」を迎えたが、その両チームが今節1勝1敗。通算成績7勝3敗で「同率首位」に並ぶ状況は変わらず。

小泉病院は初戦のVONDS市原戦、最終回、1―1の同点に追いつきながら、その裏、サヨナラ負け。続く平林金属戦も序盤で大量リードを許す「負けパターン」の試合展開。終盤の逆転で何とか6―5で勝利を収め、通算成績7勝3敗。辛うじて「同率首位」の座を守った。

ペヤングも初戦、大和電機を相手に最終回までリードを奪いながら、2点差をひっくり返され、6―7の逆転サヨナラ負け。続くCitrineSHIMANE戦もつれ込む「熱戦」となったが、2―1のサヨナラで勝利を収め、通算成績7勝3敗。「同率首位」に並んだまま、レギュラーシーズン最終節となる「第4節」を迎えることになった。

3位につけたのは、今節連勝の大和電機。「首位」を走るペヤングを相手に最終回の大逆転劇を演じ、劇的な逆転サヨナラ勝ち。ギリギリのところまで「上位争い」に踏み止まり、続くVONDS市原戦にも5―1で快勝。通算成績6勝4敗とし、「同率首位」に並ぶ2チームを猛追している。

4位は5勝5敗の平林金属。初戦のCitrineSHIMANE戦に6―2で勝利を収め、「首位」小泉病院との一戦を迎えたが、2回裏に大量4点を先制しながら、リードを守り切れず、逆転負け。5―6で痛い星を落とし、「勝率5割」一進一退の状態から抜け出せずにいる。

5位は4勝6敗のVONDS市原。初戦の小泉病院戦に2―1のサヨナラ勝ちを収め、「上位争い」生き残りに望みをつないだかと思われたが、続く大和電機戦に1―5で完敗。今節1勝1敗と星を伸ばせず、5位の順位は変わらず。

今節「ホーム」開催となったCitrineSHIMANEは残念ながら今節連敗。「ホーム」の熱い声援を背に懸命の戦いを見せたが……勝利をつかむことができず、通算成績1勝9敗と苦しい戦いが続いている。



第59回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「プラチナセクション」				
月 日	試合結果			
9月5日(土)	第1試合	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	6-5	厚木SC
	第2試合	YKK	1-13	静甲 ソルフエジオ
	第3試合	MORI ALL WAVE KANOYA	3-2	花王コスメ小田原 フェニックス
9月6日(日)	第1試合	YKK	4-0	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校
	第2試合	厚木SC	0-10	MORI ALL WAVE KANOYA
	第3試合	静甲 ソルフエジオ	4-2	花王コスメ小田原 フェニックス

第59回日本女子ソフトボールリーグ 第3節「サファイアセクション」				
月 日	試合結果			
9月5日(土)	第1試合	Citrine SHIMANE	2-6	平林金属 Peachblossoms
	第2試合	大和電機 Blue Lakers	7-6	ベヤング
	第3試合	VONDS市原 Emerald Green	2-1	小泉病院 Blue Arrows
9月6日(日)	第1試合	ベヤング	2-1	Citrine SHIMANE
	第2試合	大和電機 Blue Lakers	5-1	VONDS市原 Emerald Green
	第3試合	平林金属 Peachblossoms	5-6	小泉病院 Blue Arrows

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第59回日本女子ソフトボールリーグ

プラチナセクション 第3節 終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	静甲 ソルフエジオ	8勝2敗	0.800
1位	MORI ALL WAVE KANOYA	8勝2敗	0.800
3位	YKK	6勝4敗	0.600
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	4勝6敗	0.400
5位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	2勝8敗	0.200
5位	厚木SC	2勝8敗	0.200

サファイアセクション 第3節 終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	小泉病院 Blue Arrows	7勝3敗	0.700
1位	ペヤング	7勝3敗	0.700
3位	大和電機 Blue Lakers	6勝4敗	0.600
4位	平林金属 Peachblossoms	5勝5敗	0.500
5位	VONDS市原 Emerald Green	4勝6敗	0.400
6位	Citrine SHIMANE	1勝9敗	0.100



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイト <https://jsl-women.com/>

※Sapphire Sectionの画像はすべてLMC（リーグ・メディア・クルー）の撮影・提供

●第55回日本男子リーグ第3節●



トヨタ
通算 **11勝2敗** で
単独首位 に浮上！



三重・高知の2会場で「上位生き残り」をかけた熾烈な順位争いを展開！

「第55回日本男子ソフトボールリーグ」のレギュラーシーズン後半戦がスタート。第3節が9月4日（金）～7日（月）／雨天により1日順延、三重県四日市市・高知県高知市を舞台に開催された。

今節は、第2節終了時点で通算成績7勝1敗、SAGAダイワアクトと「同率首位」に並んでいたトヨタが順調に勝ち星を積み上げ、「単独首位」へ（通算11勝2敗）。これを今節3勝2敗・通算10勝3敗のSAGAダイワアクトが2位で追いかける形となり、以下「勝ち星一つ差」でひしめく「大混戦」の様に。



2位で追うSAGAダイワアクト

今節4勝1敗の安川電機、今節3勝2敗のHondaが通算9勝4敗で同率3位。「地元開催」で「無傷の5連勝」を飾った三重ヴェルデウインをはじめ、平林金属 RINOBLAZE、ジェイテクト、山口水産の4チームが通算8勝5敗・5位グループにつける等、決勝トーナメント進出（※レギュラーシーズン上位5チーム）を巡る争いは依然「予測不能」な状態。

9位は通算7勝6敗（今節4勝1敗）の豊田自動織機、同率10位には通算6勝7敗で大阪桃次郎（今節2勝3敗）、旭化成（今節4勝1敗）、日本エコシステム（今節2勝3敗）の3チームが続き、愛媛ウエスト（今節5連敗）、デンソー（今節2勝3敗）、大阪・堺グローバル（今節2勝3敗）の3チームも通算5勝8敗・13位に並ぶ状況。「地元開催」で「1勝4敗」と負け越してしまつた高知パシフィックウエーブは通算4勝9敗の16位、今節「待望の初勝利」を挙げながら1勝4敗に終わった埼玉県庁クラブが通算1勝12敗・17位、令和8年熊本地震の影響により今節「出場辞退」を余儀なくされた熊本県庁クラブも通算1勝12敗（※今節5試合に臨む予定であったが、出場叶わず、いずれも不戦敗扱い／試合スコアはすべて0ー7）で、同順位に位置している。



埼玉県庁クラブは待望の初勝利



初の決勝トーナメント進出を狙う安川電機（右）と山口水産（左）。最終節はいかに…



全18チーム中 **「上位5チーム」**
決勝トーナメントに進むのは!?

◎第3節終了時点 全チーム勝敗・順位

1位 トヨタ	11勝2敗
2位 SAGAダイワアクト	10勝3敗
3位 安川電機	9勝4敗
// Honda	9勝4敗
5位 三重ヴェルデウィン	8勝5敗
// 平林金属 RINO BLAZE	8勝5敗
// ジェイテクト	8勝5敗
// 山口水産	8勝5敗
9位 豊田自動織機	7勝6敗
10位 大阪桃次郎	6勝7敗
// 旭化成	6勝7敗
// 日本エコシステム	6勝7敗
13位 愛媛ウエスト	5勝8敗
// デンソー	5勝8敗
// 大阪・堺グローバル	5勝8敗
16位 高知パシフィックウェーブ	4勝9敗
17位 埼玉県庁クラブ	1勝12敗
// 熊本嶋田クラブ	1勝12敗

※上位5チームが決勝トーナメントに進出



◆三重大会◆

【大会第1日（9月4日）試合結果】

トヨタ 4-3 大阪桃次郎
平林金属 RINO BLAZE 7-0 熊本嶋田クラブ
三重ヴェルデウィン 4-0 大阪・堺グローバル
三重ヴェルデウィン 3-2 愛媛ウエスト
大阪桃次郎 7-0 熊本嶋田クラブ

【大会第2日（9月5日）試合結果】

三重ヴェルデウィン 7-0 熊本嶋田クラブ
トヨタ 6-1 愛媛ウエスト
安川電機 10-0 大阪・堺グローバル
三重ヴェルデウィン 2-1 安川電機
大阪桃次郎 1-0 愛媛ウエスト
平林金属 RINO BLAZE 5-2 トヨタ
大阪・堺グローバル 7-0 熊本嶋田クラブ
平林金属 RINO BLAZE 6-3 大阪桃次郎

【大会第3日（9月6日）試合結果】

三重ヴェルデウィン 2-1 平林金属 RINO BLAZE
トヨタ 5-1 大阪・堺グローバル
安川電機 2-1 大阪桃次郎
トヨタ 7-0 熊本嶋田クラブ
大阪・堺グローバル 6-2 愛媛ウエスト
安川電機 3-2 平林金属 RINO BLAZE

【予備日（9月7日）試合結果】

安川電機 2-1 愛媛ウエスト

◆高知大会◆

【大会第1日（9月4日）試合結果】

豊田自動織機 12-2 日本エコシステム
ジェイテクト 4-0 旭化成

【大会第2日（9月5日）試合結果】

デンソー 4-1 高知パシフィックウェーブ
旭化成 3-0 Honda
SAGAダイワアクト 8-1 ジェイテクト
山口水産 4-3 高知パシフィックウェーブ
旭化成 5-3 豊田自動織機
埼玉県庁クラブ 5-2 SAGAダイワアクト
デンソー 9-5 日本エコシステム
Honda 3-2 山口水産
豊田自動織機 4-2 埼玉県庁クラブ

【大会第3日（9月6日）試合結果】

豊田自動織機 2-1 高知パシフィックウェーブ
旭化成 2-1 SAGAダイワアクト
ジェイテクト 10-8 埼玉県庁クラブ
山口水産 6-5 埼玉県庁クラブ
豊田自動織機 9-1 デンソー
日本エコシステム 8-7 ジェイテクト
高知パシフィックウェーブ 4-1 Honda
旭化成 5-2 デンソー
日本エコシステム 9-7 山口水産

【予備日（9月7日）試合結果】

SAGAダイワアクト 10-3 高知パシフィックウェーブ
SAGAダイワアクト 3-0 日本エコシステム
Honda 6-1 デンソー
山口水産 8-0 ジェイテクト
Honda 5-0 埼玉県庁クラブ

第3節の詳細レポート ダイジェスト動画はこちら！

●女子U15日本代表レポート●

令和8年8月28日（金）～30日（日）東京都国立市・町田市／東京女子体育大学・野津田球場

迫るアジアカップへ向け



去る8月28日（金）～30日（日）の3日間、東京都国立市・町田市において、女子U15日本代表が「第1次全国強化合宿」を実施した。

この合宿は、10月12日（月・祝）～17日（土）、中国・山東省威海で開催予定の「第3回女子U15アジアカップ」に向けた強化を目的としたもので、4月21日（火）～23日（木）、静岡県伊豆市で開催された「令和8年度女子U15日本代表チーム選手選考会」を経て選出された代表選手16名が初めて一堂に会し、「チーム」として本格的な強化をスタートさせた。

合宿初日（28日／金）、東京女子体育大学のグラウンドで同大学と練習試合を実施。初めての实戦は0-3で敗れたものの、普段、日本の「中学生カテゴリー」で使用しているゴムボールとは異なる革ボールへの対応に取り組む中で、実戦を通して多くの課題を確認する貴重な機会となった。

合宿2日目（29日／土）の練習試合では、前日の実戦の中で出てきた課題や反省点を踏まえ、試合に臨んだが、結果は0-5で完敗。大学生との「力の差」を感じさせられる場面も多く、現在の自分たちの課題を改めて突きつけられる試合となった。それでも、選手同士がコミュニケーションを取りながらプレイを修正する姿も多く見ら

れ、チームとしての成長が感じられる内容となった。

最終日の3日目（30日／日）は、町田市・野津田球場へ移動し、日本女子体育大学の協力のもと、練習試合に臨んだ。試合前のミーティングで選手たちには示された目標は、「このチームでまず1点を取ろう」というものであり、一つの目標を共有して試合に臨むと、試合は1-2で惜しくも敗れたものの、チームとして初めての得点を記録。3日間の活動を通して積み重ねてきた成果が、初めてスコアという目に見える形で実を結び、選手たちの成長を感じさせる瞬間もあった。

この3日間の合宿を通して、選手たちは世界トップレベルの技術を学ぶだけでなく、日本代表選手としての自覚やチームとして戦うためのコミュニケーションの大切さが強調された。初めて16名が集まり、時に声を掛け合い、時に教え合いながら、一つの「チーム」へと歩み始めた女子U15日本代表。この「第1次全国強化合宿」の後、直前強化合宿（10月7日／水・8日／木）を経て、10月9日（金）、チームは「第3回女子U15アジアカップ」に向け、中国へ出発した。

アジアの頂点、そして翌年の「ワールドカップ」出場権をかけた16名の戦いに期待したい。



大会概要・大会出場選手
大会スケジュールはこちら



選考会の詳細レポート・動画はこちら



リーグも再開！ 全日本大会も開催続く！！

第41回 全日本壮年大会

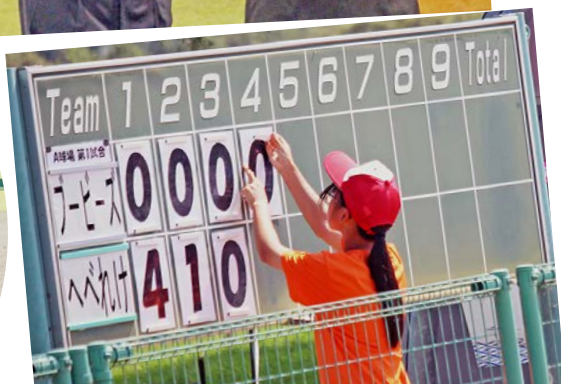
南島原クラブ（長崎）
SRF（埼玉）
DC川原石クラブ（広島）
SBC神奈川・小田原（神奈川）

4チーム優勝で閉幕



第35回全日本実年大会

雨天中止の
お知らせ



悪天候に悩まされ途中打ち切りの大会も…

9月に入り、JDリーグ、日本リーグ男子・女子の後半戦が再開され、夏場から開催の続いている「全日本大会」（全国大会）も真っ盛り！ 全国各地で大会が開催されている。

体温を超えるような「猛暑」「酷暑」に悩まされたかと思えば、台風発生、その影響を受けた悪天候が続き、局的、あるいは短時間に猛烈な勢いで降る雨が「観測史上初」の雨量を記録したり、冠水・水没の被害等……大会運営の悩みは尽きない。それでも参加し、てくださったチーム・選手の皆さんに少しでも喜んでもらいたい、全国各地の大会で誰もがそれぞれの立場で「全力」を尽くしている。

ソフトボールシーズンもクライマックスに差し掛かり、長年「リーグ審判員」として活躍された方が「今シーズン限りで……」と決断される場面に直面したり、一方では「今年、リーグ審判員の選考会にチャレンジします！」と希望に燃える姿と出会ったり……選手の中にも「現役引退」のタイミングを迎える選手もいれば、進学・就職といった岐路に立ち、新たな「進路」としてリーグチームでソフトボールを続けることを選択する選手もいる。いずれにせよ「ソフトボール」から離れず、どんな形であっても携わり続けてくれることを心から願っている。

日本男子・女子リーグ JD リーグ



全日本大会



事務局だより

全国中学校男子大会 40年、の歴史に幕

昭和61年（1986年）の第8回大会から今日まで、40年、歴史を紡いできた「全国中学校男子ソフトボール大会」が「閉幕」。

「最後の開催」となった第48回大会（※8月22日～24日、岡山県倉敷市を舞台に開催／本誌6・7頁参照）は、地元・新見市立新見第一中学校が5年ぶり4回目の優勝を果たし、有終の美を飾った。



「最後の全中男子」を制した新見市立新見第一中学校

この全国中学校男子大会は、高校生のインターハイのような「総合体育大会」の中で行われてきた大会であり、都道府県予選、地区（北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の9地区）予選を勝ち抜いてきた16チームによって覇が競われてきた。



中体連主催のもと、熱戦を繰り広げてきたが…

しかし、日本中学校体育連盟が主催するこの大会で2027年度以降、水泳、ハンドボール、スキー、体操、新体操、ソフトボール男子、相撲、スケート、アイスホッケーの9競技を実施しないことが決定され（※全国の中学校約1万校で部活動の少ない競技を取りやめ、現行の20競技からほぼ半減させることで大会運営を担う教員の負担を減らす狙い）……中学生の「大きな目標」であり「晴れの舞台」であった

「全中」から男子ソフトボールが姿を消すことになってしまった。

「中学生男子」のカテゴリーは、春の「都道府県対抗全日本中学生男子大会」、夏の「全国中学校男子大会」「全日本中学生男子大会」とこれまで3大会実施してきた経緯があるが、男子ソフトボールの未来を見据え……今後どのように大会をすみわけ・整理していくか。

また、大会の開催のみならず、足元の普及・育成にも目を向け（もしくは耳を傾け）、具体策を見出し、動き出さなければならない。



中学生男子、男子ソフトボールの「未来」を見据え、「具体策」を！